

津島市スポーツ推進計画 (骨子案)

基本理念 スポーツで つながる・つくる 未来の津島

現状と課題	基本目標と基本施策	
	基本目標Ⅰ するスポーツの推進	具体的な取組(例)
<ul style="list-style-type: none"> ・ 市民アンケート（以下「市民」）のスポーツ実施率は49.3%、小中学生アンケート（以下「小中学生」）では75.2%である。市民のスポーツ実施率は全国・愛知県の割合に比べ低い状況となっており、特に子育て・働き世代のスポーツ実施率が低くなっている。 ・ 今後、スポーツ実施率が低く、運動不足を感じている世代である子育て・働き世代（30・40歳代）や、体力に不安がある70歳代以上など、年齢やライフステージに合わせた運動やスポーツ活動の推進を進めていく必要がある。 ・ 小中学生では「スポーツをすることが好き」な割合が8割半ばと多い。一方、部活動や地域のスポーツクラブに所属している割合が小学生において全国・愛知県の割合に比べ低い状況となっており、自分のやりたいスポーツのクラブが身近な場においてないことが要因として考えられる。 ・ 主な市内スポーツ大会は約18あるが、参加者数がコロナ以前の水準（約1万人→約5千人）に戻っていない現状がある。 	①子どものスポーツ推進	<ul style="list-style-type: none"> ・ スポーツの魅力や楽しさを体験できる機会（イベント等）の提供 ・ 児童生徒の体力向上のための取組 ・ 学校体育・スポーツの充実 ・ 多様なニーズに応じた運動部活動の推進
	②多様な主体が楽しむスポーツ推進 (ライフステージ別のアプローチ)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 若者をはじめとした成人へのスポーツ参加機会の拡充 ・ 子育て・働き盛り世代へのスポーツに親しむ機会の提供 ・ 高齢者へのスポーツに親しむ機会の提供 ・ DX等を活用した新たなスポーツの推進
	③共生社会の実現	<ul style="list-style-type: none"> ・ 誰もがスポーツに親しめる機会の創出 ・ パラスポーツの魅力や楽しさを実感できる機会の提供
	④アスリートの育成	<ul style="list-style-type: none"> ・ ジュニア選手の発掘・育成・強化
<ul style="list-style-type: none"> ・ 市民・小中学生共に「テレビ・インターネット等で観戦した」割合が多く、小中学生では「市内の会場で観戦した」「市外の会場で観戦した」割合が市民よりも多くなっている。全国に比べ、スポーツ観戦に興味が高い傾向にある。 ・ 今後さらに観戦率をあげていくための取組・工夫として、「自宅などから行きやすい場所で開催されれば」の割合が5割半ばであり、身近な場所でのスポーツ観戦環境が求められている。 ・ プロランナーの神野選手の指導による愛知駅伝や、学校でのなわとび世界チャンピオンとの交流機会は、スポーツに親しむ良い契機となっている。 	基本目標Ⅱ みるスポーツの推進	具体的な取組(例)
	①誰もがスポーツに親しめる場・機会づくり (応援・観戦するスポーツの推進)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 大会等の誘致 ・ スポーツイベントの開催 ・ スポーツの観戦機会の提供
	②スポーツによる地域活性化 (スポーツコミッション)	<ul style="list-style-type: none"> ・ スポーツ大会やイベントの誘致 ・ スポーツを通じた地域交流促進
③アスリートとの交流機会	<ul style="list-style-type: none"> ・ アスリートとの交流機会の創出 ・ スポーツの観戦・応援機会の創出 	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 「ボランティア活動に関心がある」割合は市民で2割弱、小中学生で4割半ばであり、小中学生の関心度が高い。このため、小中学生を中心に子どもの頃からのボランティア活動への参加機会を増やしていくことが考えられる。 ・ スポーツ団体の運営状況について、運営を担う人材不足や高齢化を感じている団体が多くなっている。また、指導者の高齢化や審判員が少ないと感じている団体が多い。スポーツ団体の継続的な運営への支援や指導者・審判員の確保などが求められる。 ・ 運動やスポーツを実施するきっかけとして、「運動ができる場や機会の情報が得られれば」の割合が多い。また津島市総合型地域スポーツクラブやスポーツ推進委員の認知度が低い。このため、スポーツに関する情報提供の充実などを図り、スポーツ活動の参加を促していくことが必要である。 	基本目標Ⅲ ささえるスポーツの推進	具体的な取組(例)
	①スポーツ指導者の発掘・育成	<ul style="list-style-type: none"> ・ スポーツ指導者の資質向上のための取組(指導者・審判員等の養成(研修・講習会等)) ・ スポーツ指導者の活躍の場を広げる取組み
	②ボランティアの育成・活動推進	<ul style="list-style-type: none"> ・ スポーツに関するボランティアの参加促進と活動支援 ・ 子どもがスポーツボランティアを経験できる機会の提供
	③スポーツ関連団体への支援・連携体制の構築	<ul style="list-style-type: none"> ・ スポーツ関連団体の周知・支援 ・ スポーツ関係団体との連携強化
④情報提供の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市ホームページ等でのスポーツ・レクリエーション情報の充実 ・ SNS等を活用した情報発信の充実 ・ スポーツや健康に関する普及・啓発 	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 市内の公共スポーツ施設の多くが築40年以上であり、使用中止となっている施設や機能がある。設備や外壁の老朽化が顕著であり、大規模修繕が必要な状態が多く、高額な維持・運営費が必要となっている。 ・ 今後、整備・充実が求められる施設種類として、市民では「屋内プール」「室内トレーニング施設」、小中学生では「体育館」「運動場」、団体では「体育館」「屋内プール」が最も多くなっている。 	基本目標Ⅳ スポーツに親しむ環境づくり	具体的な取組(例)
	①スポーツ施設整備方針	<ul style="list-style-type: none"> ・ スポーツ施設整備の基本的な考え方 ・ スポーツ施設の有効活用 ・ スポーツ施設の設備・備品の安全点検と更新 ・ 新たな施設整備について